

## 5-6 日本の国際緊急援助隊キャンプの訪問

午後 6 時、バタグラムにある日本の国際緊急援助隊キャンプに到着した。援助隊の隊長である難波充典氏（外務省国際緊急援助室長）から救出活動についてブリーフを受けた。

- 山岳部の村、急勾配の箇所が壊滅した。家屋の構造が耐震性でない。コンクリートの中には鉄筋が入っておらず、もろい構造である。
- バタグラムにはパキスタン軍の指示で来た。軍の情報が正確でなく、埋まっているという被災者数がかかなり違っていたりした。
- 救助隊の目的は生存者救出にあるが、一人も生存者を救出できなかった。震災後 5 日が経過し、生存の目途である 72 時間をすでに超えている。
- 生存者救出を妨げた要因は複数ある。1 つは即死状態が多かったこと。もう 1 つは土と石の家屋のため瓦礫が空間をふさぎ窒息死したことがあげられる。
- 生存者救出は時間との勝負。救助隊は商用機を乗り継いできたため、かなりの時間を要してしまった。救助活動にはチャーター機や専用機の利用が必要である。
- 最先端の捜索機器を持ち込んだが、土とコンクリートの被災現場では全く役に立たなかった。小型のショベルカーなどが必要だった。



日本の国際緊急援助隊の皆さんと